

(様式4)

令和7年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度、生徒の心身両面のさらなる成長と魅力ある学校づくりを目指し、5つの重点項目と10の達成目標を設定し、実践した。

重点項目1（学習活動）の「授業力の向上」について、互見授業に限らず、授業の工夫点や改善点を教員間で共有できる機会を設け、その取組みを充実させていく。また、「学習内容の定着、学習実態の改善」について、目標は達成した。学習意欲を喚起するために、学習の取組み状況の把握や進路目標の明確化に努めていく。

重点項目2（学校生活）の「遅刻0回の人数 全体の75%以上」という目標は達成できたが、特定の生徒が回数を重ねている実態がある。また、「防災意識を高める」という目標は、クイズやポスター、保健だより、さらに保健委員会で防災に関する展示などを通して、防災煮に関して情報発信で、概ね達成したと言える。

重点項目3（進路支援）の「面接の充実」では、面接を通して「自己理解が深まった」「進路を主体的に考えるのに役立った」とする割合が、3学年では目標を達成したが、1・2学年では目標を下回った。定期的な面接だけでなく、機会を捉えて面談を行っていききたい。

重点項目4（特別活動）の「ボランティアに参加した延べ人数600人以上」は、目標を達成した。「一日あたりの平均図書室利用者数12人以上」は目標に届かなかった。生徒会や委員会活動などを通して、参加や利用の有益性を周知して、参加者・利用者の増加を図りたい。

重点項目5（専門科目(家庭)）の「家庭科技術検定における合格率・取得率」は、「卒業時における生活文化科に対する満足度90%以上」については、目標を達成することができた。来年度もさらなる充実を図っていききたい。

今年度の10の達成目標の評価は、Aが3、Bが3、Cが4、Dが0であった。B以上が半数を超えたが、あまり達成できなかったものについては、改善に取り組む必要がある。

7 次年度へ向けての課題と方策

次年度に向けての方策として、次の点が挙げられる。

- ・デジタル(ICT利用)とアナログ(紙に書くなど)を効果的に併用し、個別最適な学習方法を探り、粘り強く取り組む力を育成していききたい。
- ・スマートフォンは便利なツールであるが、「正しい利用・使用」については、継続的に指導や支援をしていく。
- ・立山地区のボランティア依頼も増えており、これまで参加していない生徒も参加しやすい募集の工夫をし、生徒が喜びや達成感を得る経験をさせて、成長を促していききたい。
- ・生活文化科では、生徒の実態を十分考慮し、全体指導と個別指導を効果的に行う。

また、行事・諸活動について、充実したものとなるよう検討を重ねていく。

グランドデザインを柱として教職員の意識の統一を図り、高い目的意識を持って入学したいと思える学校を目指して、魅力ある学校作りを進めていきたい。